

## 第2回首都圏広域地方計画改定に関する有識者懇談会 議事要旨

日 時：平成27年3月25日（水） 14:00～16:00

場 所：中央合同庁舎3号館10階共用会議室

出席者：出席者名簿のとおり

議 事：（1）第1回首都圏広域地方計画改定に関する有識者懇談会の議事概要等について  
（2）首都圏広域地方計画骨子（素案）（案）について  
（3）首都圏版「運命の10年」コアプログラムについて

### 主な発言内容

#### 座長

- ・いろいろな方のご意見を紹介頂いたが、問題指摘までで、答えは言ってくれていない。我々には答えが求められている。首都圏の計画として鮮明な空間性、場所性や、具体的に何をするのかを伝えられるようにしたい。
- ・それをイメージしやすくまとめてみたのが資料6である。時間的なターゲットが違うオリンピック・パラリンピックを除き、覚えやすい5本柱にした。Aは中身を見れば分かる。Bのタイトルはもっとシャープにしたい。
- ・今日は資料4-1とその付随として資料6、データとして資料4-2に意見を頂き、修正したものを4月の協議会にお出ししたい。

#### 委員

- ・より具体的にということは同感である。
- ・資料4-1 P②では介護福祉施設の整備を加速するとあるが、資料6 E1) 在宅医療の効率化とは矛盾を感じる。サービス付高齢者住宅を増やすことは両省が一致しているが、前者は厚労省と意見が異なる。意見が異なるのは構わないが、具体的にどう進めるのかまでは踏み込むべき。
- ・資料4-1 P②VIで、医療特区を活用して医療を高度化すると書くならば、資料4-2. に具体策が必要ではないか。

#### 委員

- ・資料は前回よりは良くなった。国土のグランドデザイン2050をできるだけ参照した方が、メリハリが付くのではないか。
- ・団子と串のうち、首都圏の団子はどこなのか具体的なイメージが必要ではないか。
- ・資料4-1 P②で、I 防災減災については、最悪の事態で霞が関などがやられたらでどうするのかなど、優先度の高いものから書いてはどうか。
- ・Ⅲについては、東京都が実施している起業者向けのワンストップセンターのような具体策をしっかりPRすべき。
- ・Ⅳについては、子育て施設や高齢者施設がどのくらい足りないのか明らかにすべき。施設整備が本当に間に合わないなら、遠隔学習や遠隔医療など使える部分ではできるだけICTを使い、どうしても施設の必要なところを明快に峻別すべき。
- ・Ⅴについては、首都圏が地方にどう役に立つのかをもう少し前面に出してはどうか。

## 委員

- ・「運命の10年」は何に対する運命か、運命を切り開くとどんな未来があるのかが分からない。国土のグランドデザイン2050のことだとすれば、その最初の10年間のプログラムが求められているのか。説明を聞いていると、ビジョン的な内容も多く含まれている。うまくいったらどういう首都圏になり、もし失敗したらどうなるのか、大きな流れを意識して整理すべき。
- ・5項目くらいにまとめるとするのは良いと思う。  
どんな災害が起きても首都圏、日本が生き延びているという意味で、AとBはひと固まりではないか。
- ・国土強靱化で目指している方向と首都圏のめざす方向を一致させるため、「国土強靱化基本計画」で示された45の「起きてはならない最悪の事態」を整理して目標にしてはどうか。その上でICTを都市の神経系として入れ、ビッグデータを使っていかなる事態にも3500万人を混乱させないよう対応することが、首都圏としての重要な課題である。また、災害対応でクルマをいかにコントロールできるかが重要。
- ・CとDについて、都市と農村、自然との連携など、首都圏にすべてを入れるのではなく、首都圏が周辺の広域圏と間で果たすべき役割が何かを考えることが必要。リニアや新幹線の意味はそこから出てくるのではないか。

## 委員

- ・子どもと若者の視点が抜けている。
- ・都市と農村の交流を図る上では、行き来がしやすい環境整備が重要。日本人の約65%が年間1泊以上の旅をする。これは日本人が旅好きでありことを示しており、小中高の修学旅行が影響しているのではないか。そういう(小さいうちから行き来しやすくする)環境整備が重要。
- ・資料4-1P③「21世紀型観光」の定義を教えて欲しい。観光は古きも新しきも両方必要ではないか。

## 委員

- ・防災、飲み水、環境などをまとめて、とにかく「水」と一言あれば良い。
- ・東京でも、江東区など水のそばであるウォーターフロントに人が集まっているようだ。大都市の中でも選択と集中が必要ではないか。低層木造密集住宅は火事に弱く、エネルギー消費効率も低い。スーパー堤防上のマンション群のほうがほるかに効率がよく、河川の浚渫・掘削で生じる土でスーパー堤防を造ってはどうか。
- ・オリンピックでは日本橋川沿いをマラソンが走るが、日本橋川は夏場は臭い。それを良くしようとしたら、水の対策が不可欠。

## 座長

- ・多くのご指摘を頂いたが、少なくともグランドデザイン2050の逆プロジェクションは必要ではないか。
- ・人口増減やGDP増減のような(地域に即した)検討が必要。そういう分析をすると団子と串、都市の構造が見えてくる。抽象論のコンパクトシティでは他の計画と変わらない。
- ・旅の教育、カルチャーは重要な指摘だと感じた。グランドデザイン2050では交流、人が動くことが大事と言っているが、良い答えになるのではないか。

#### 委員

- ・首都圏の中でも1都3県とその周りでは違うということをまず書くべき。それが計画を複雑にしているのではないか。
- ・データに基づく議論も大事。データをオープン化してみんなで考えられるようにしてほしい。

#### 委員

- ・国土は空間概念だけでなく時間概念でもある。もともと自立した生活圏が、交通の発達でひとつになってしまった。国土のレジリエンスの観点からも、異なるメカニズムで動く空間のまとまりがあることは重要。例えば都市と農村でレイヤーを分け、それを非常時にはつなげるのもひとつだ。団子と串もパラレルの関係ではないか。それをビジュアルに伝えることが大事。

#### 委員

- ・意見を聴くほど丸くなる中で、パンチを効かせたいならば切り削ぐプロセスが必要ではないか。資料6のSの言葉選びは重要。量ではなく質で勝負というのは良いキーワードだ。みなさんが合意できるのならば、もっと鮮明に出してはどうか。

#### 委員

- ・東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に、日本はどうやって海外からのお客様を迎えるかが重要。オリンピック・パラリンピックをアクセシブルにするため、IoT、センサー、ビッグデータなどが活用できる。
- ・資料4-2 P52, 53の2ページは素晴らしい。絶対に実現してほしい。数十センチの精度で位置情報を把握できれば、災害時の救助、平時では高齢者や障がい者の支援が可能になる。
- ・今のインフラはテクノロジーの無い時代から積み上げられており、アクセシビリティの観点からはひどい。全部作り直すことは無理かもしれないが、場所を限定して一部の地域だけでもICTを基盤にして、素晴らしい空間を造れないか。日本はインフラの水準としては世界の中でも良い位置にいますので、そこからさらに一步上に行けると良い。
- ・子どもや若者に加えて、障がい者の参画も是非入れてほしい。

#### 委員

- ・野心的で多くの事柄を盛り込んでいるので、分かりにくいところは仕方ない。
- ・地球温暖化対策、環境問題はかなり高い目標を設定していかなければならない。プロジェクトの中にも入れて欲しい。現行計画の水と緑のネットワークなどは、実現に時間が掛かるので、新計画にもしっかき残してはどうか。新計画に残すものとそうでないものの仕分けをするべき。
- ・国際空港へのアクセスについて、異次元の整備、例えば新幹線を入れるとか、何かしら書けると良い。
- ・東京問題について、東京の夜間人口は予測を上回って増えている。そこに踏み込んだ言葉があった方がシャープになるのではないか。
- ・広域的な課題とローカルながら共通な課題とがあるはずで、それらの中には多くの国民の方に参加・協働してもらいたいテーマもあるはずである。一定のコミュニケーションのプロセスが計画づくりに必要ではないか。

#### 委員

- ・資料6が一番分かりやすかった。ただし、挙げられているものはそれぞれ力の入れ方がかなり違う。

- ・ Bは、首都圏の強靱化などもう少し大きなタイトルでも良いのではないかと考えている。Cは、もう少し中身を考えて欲しい。
- ・ 国の構成機関にも、この枠組みの中で各局がやっていきたいプロジェクトがあるはず。それを出してもらおうと具体的になるのではないかと考えている。

#### 関東総合通信局

- ・ 当局においても、ICTの利活用の面から支えて参りたいと考えている。
- ・ ICT（情報通信手段）はいわゆるツールであり、医療・災害・観光などの課題に対応するためICTの一層の活用を進めるべきものと考えている。
- ・ 例えば、東京オリンピック・パラリンピックに向け、光ファイバやWi-Fiも含めた移動体通信ネットワークの整備など、情報通信基盤を整備・活用するプロジェクトを推進したいと考えており、首都圏計画においても支援したい。

#### 関東経済産業局

- ・ 首都直下地震対応のエネルギー面では、備えをつくることと、壊れたときにどう支えるかの2つの面から考える必要がある。東京湾に（船が）入れなくなったときにLNG供給が途絶えると、首都圏の電力の供給に大きな支障が生じる。現在、栃木県の真岡に120万キロワットのLNG発電所を造り、日立から運ぶ計画が動いている。道路とエネルギーは、ネットワークの発想は同じである。
- ・ 産業の視点からは、連携の視点が重要である。

#### 関東農政局

- ・ 関東は全国の農業生産額の3割を占める。単価の高いものを直ぐそばで食べてくれる環境があるからである。首都圏の農業には、東京の周辺部を支える側面や、潤いや都市・農村交流の機能があるからこそ、国も支えている。効果についても実証がなされてきており、着実に進めて行きたい。

#### 座長

- ・ 食糧自給率の数字の向上と、川場のような付加価値型の取組と、感触はどうか。

#### 関東農政局

- ・ 生産されるカロリーは少ないが、付加価値の高いものを目指す、というのが首都圏農業の方向ではないかと考える。

#### 座長

- ・ 資料6に福島支援が抜けている。日本の国土の中で首都圏が頑張ることとして、Cのスーパーメガリージョンや福島支援、D2)日本海との二面化、特定離島などをまとめてひとつの柱にしても良いのではないかと考えている。
- ・ いただいた意見を踏まえ、事務局と私（座長）に一任いただきたい。  
(異議無し)

以 上